

新どさんこレポート vol.13

テーマ：北海道民のSDGs意識

SDGsは北海道全域に浸透中。ここ2年間で認知度は約2.5倍。自分ごと化できるかが、これからのテーマに。



北海道博報堂「新どさんこ研究所」（新ど研）では、生活者を取り巻く環境の変化にともない、道民意識や行動も変わって行くという仮説のもと、「一歩先の道民=新どさんこ」の姿を生活者データの分析や未来予測から提言して行きます。

● 今回のテーマについて

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



2015年、国連は「SDGs(Sustainable Development Goals=持続可能な開発目標)」を採択しました。これは、貧困や飢餓、エネルギー、気候変動、平和的社会など持続可能な開発のための17の目標を達成すべく、先進国も途上国も含めた国際社会共通の活動プランです。

今回の新どさんこレポートでは、道内外1500サンプルを対象としたオリジナル定量調査で見えてきた、道内生活者のSDGs意識の傾向についてデータでご紹介いたします。

北海道民のSDGs意識は次のページへ

データの紹介

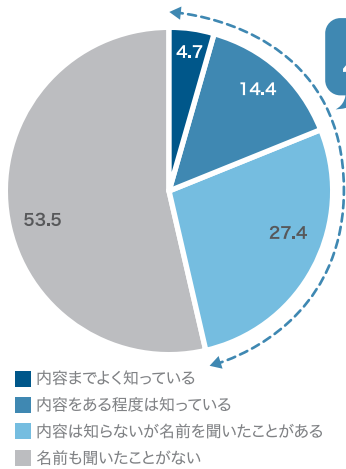
1. 北海道民の属性別SDGs認知

SDGsは道央を中心に浸透し、道内認知者はおよそ2人に1人に。認知者は2年間で約2.5倍。男女とも若年層での認知が高め。

北海道民のSDGs認知

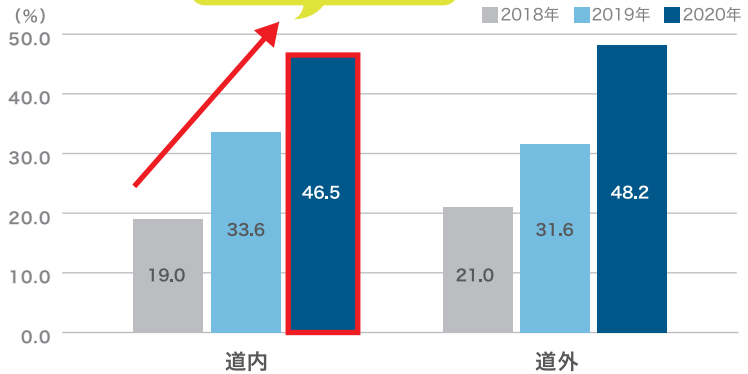
Q.「持続可能な開発目標（SDGs）」について、あなたはどの程度ご存知ですか。

道内(n=1,000)
道外(n=500)

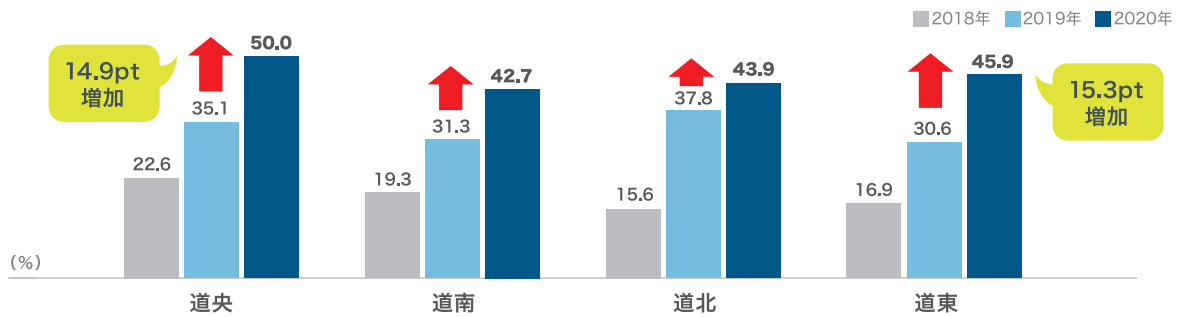


道内認知度
46.5%

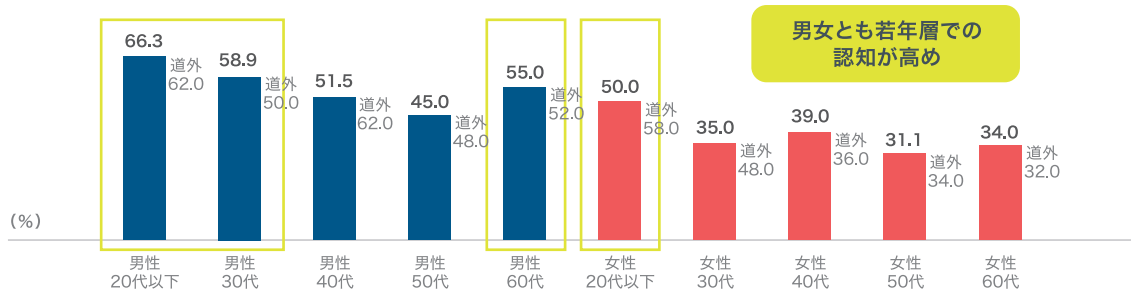
ここ2年間で
27.5ptも増加(約2.5倍)



北海道民のエリア別SDGs認知（経年比較）



北海道民の性年代別SDGs認知



北海道内のSDGs認知度は46.5%で道外の48.2%と同程度。この2年間で、全道の認知度は大きく拡大しています。道央を中心に浸透しており、道東でも平均以上のスコア。性年代別では、男女とも若年層のスコアが高く、男性が女性より高めな傾向。男性20代の認知は全年代で唯一60%を超えており、突出しています。

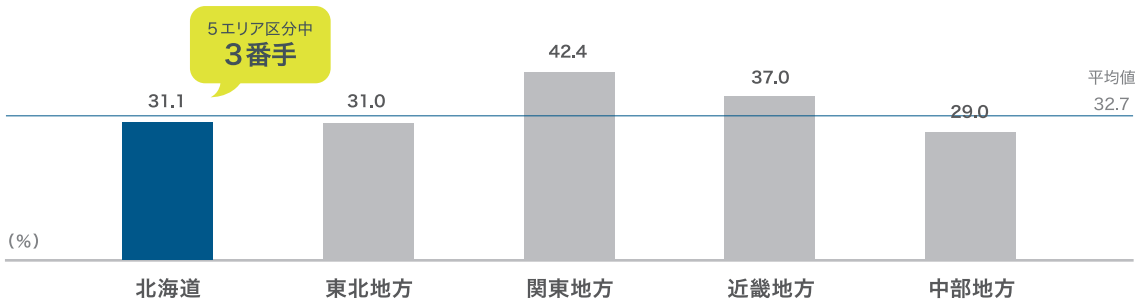
2. 北海道民SDGs関心度

SDGsを重要な指標と考える道民はおよそ3人に1人だが、道外より低い。男女20代の関心度が突出して高く、SDGsネイティブ層として期待。但し、他年代のギャップが道外よりも大きく、意識の乖離が懸念。

SDGsへの意識

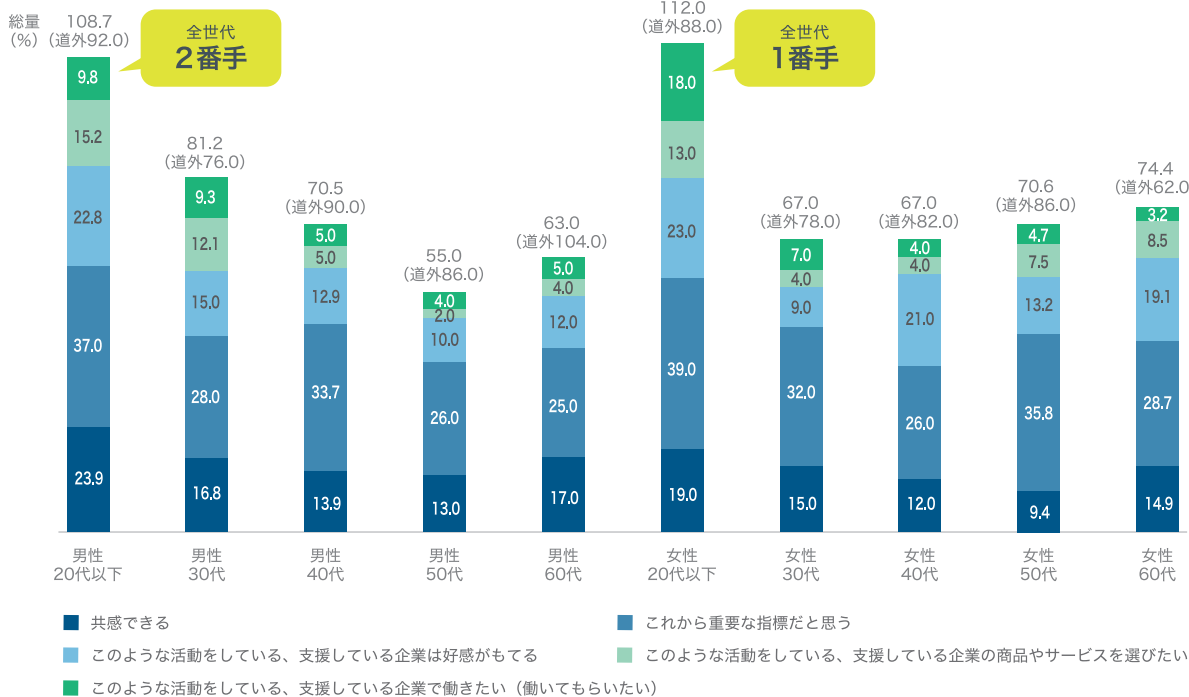
Q.あなたは、SDGsの取り組みについて、どう思われますか。あてはまるものをすべてお知らせ下さい。
「これから重要な指標だと思う」回答者計

■ 道内(n=1,000)
■ 道外(n=500)



SDGsを「重要な指標だと思う」人の割合は北海道で31.1%。5エリア中、関東地方、近畿地方に次いで3番手となり、およそ3人に1人。北海道では、まだ重要と考えている人は全国平均より少ない状況です。

Q.あなたは、SDGsの取り組みについて、どう思われますか。あてはまるものをすべてお知らせ下さい。
※複数回答 ※性・年代別の回答者計の積み上げ



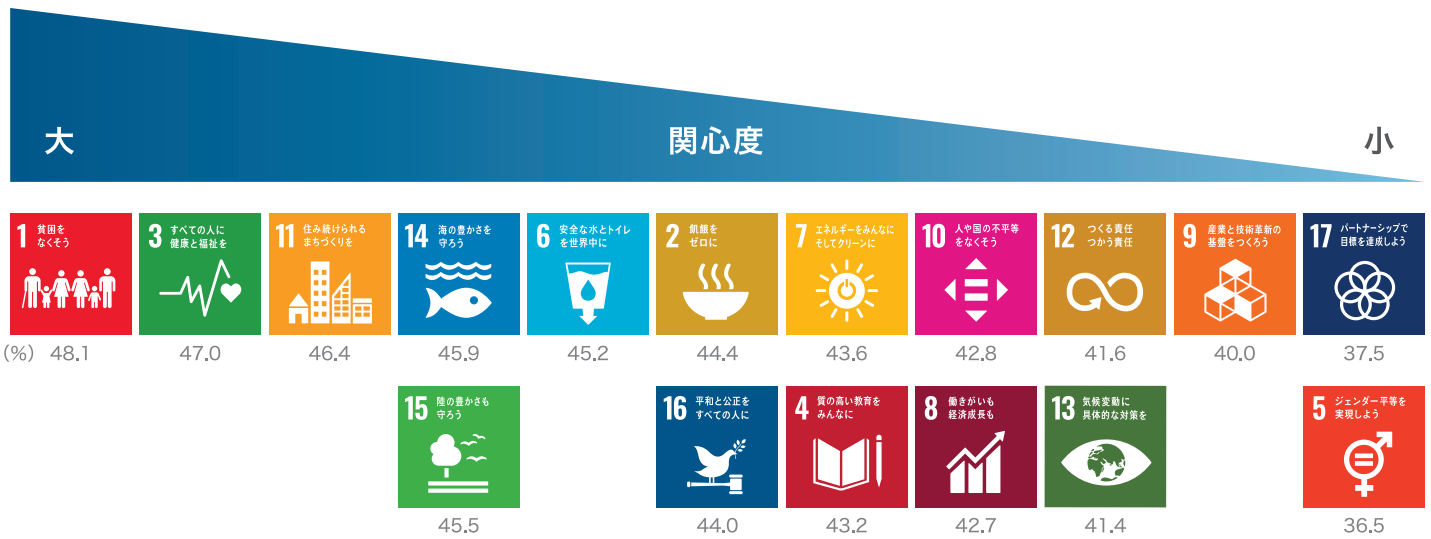
北海道内のSDGsに関する各スコアを性年代別で見ると、男女20代以下が突出していることがわかります。道外も傾向は同様ですが、数値差が道内ほど開いていません。また、道内男性50代の総量は他年代より低く、道外からも差が大きい状況。経営・管理職層に多い50代、60代で理解が進んでいない懸念があり、20代と50代以降の世代間の意識のギャップが見られる結果となりました。

3. 北海道民のSDGs17のゴールへの関心状況

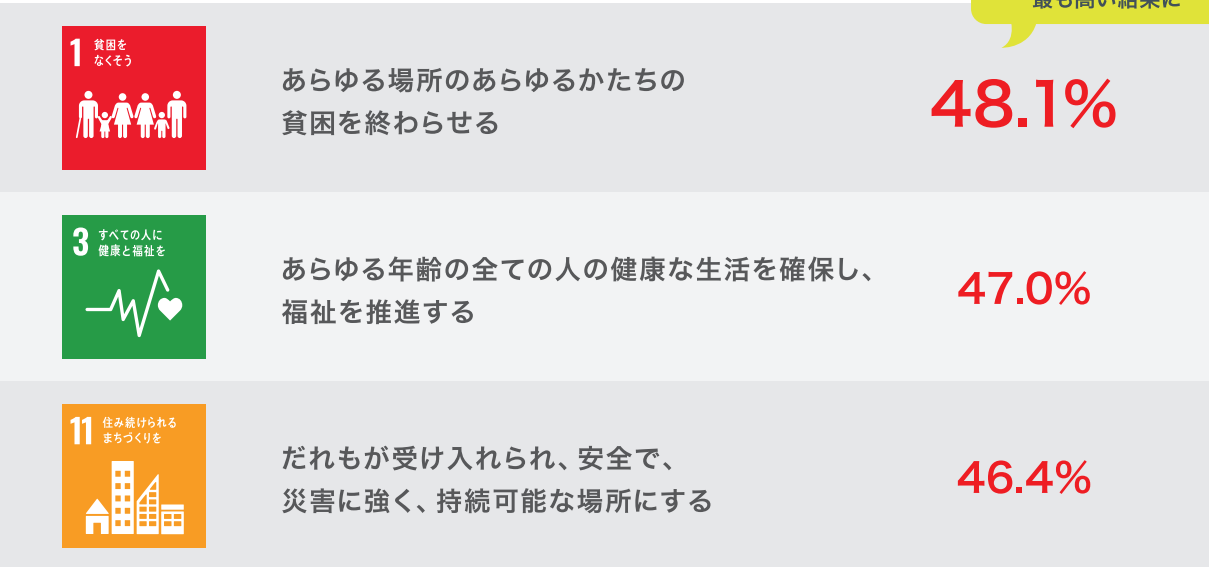
北海道では、貧困・福祉といったテーマの関心度が高い傾向に。また、海・陸や水資源への関心度も高く、自然環境への関心や守りたいという意識の高さがみられる結果に。

北海道民のSDGs関心項目

Q.「持続可能な開発目標（SDGs）」には17の目標が定められています。それぞれの項目についてあなたはどのように思われますか。「関心あり」回答者計



TOP3



SDGsの全17目標に対して、最も関心が高かったのは「あらゆる場所のあらゆるかたちの貧困を終わらせる」で、48.1%。次いで「あらゆる年齢のすべての人の健康な生活を確保し、福祉を推進する」が47.0%と、貧困・福祉といったカテゴリーに対する関心度が高い様子が伺えます。また、海・陸の豊かさへの関心度も高く、自分たちの生活に直結する地球資源に対する意識が高いことがわかりました。自然とその恵みが豊かな北海道ならではの意識ともいえそうです。

4. 北海道民のSDGs取り組み意向項目

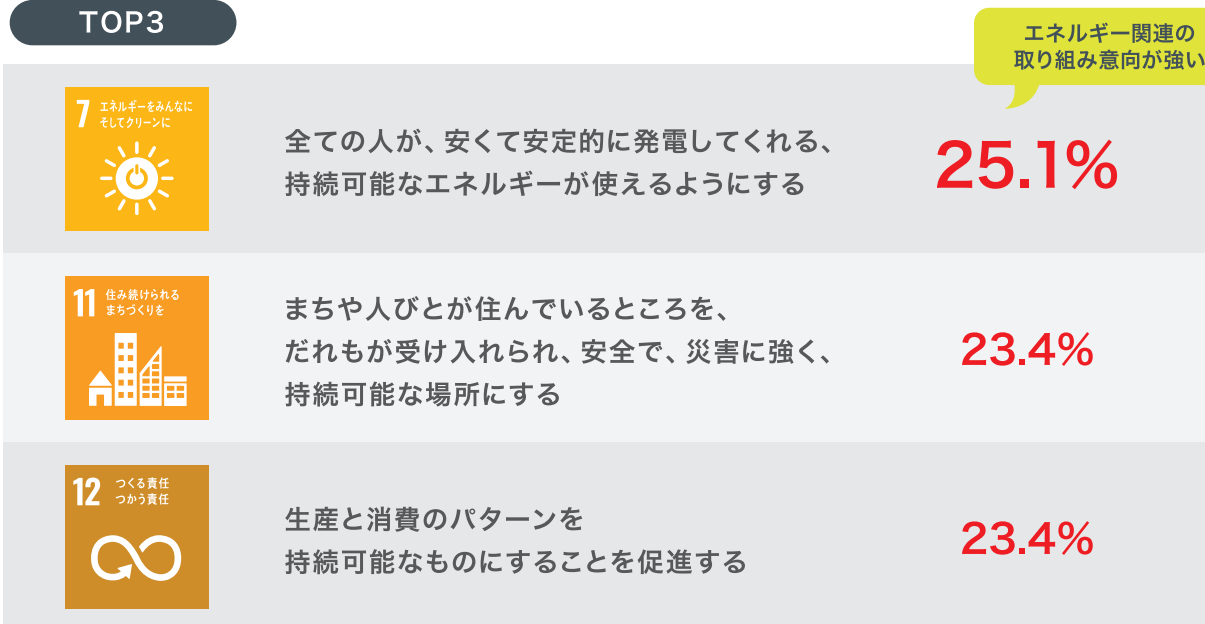
道民が最も取り組みたいと思っているSDGsは「7. エネルギー」。
「11. 住み続けられるまちづくりを」「12. つくる責任とつかう責任」への取り組み意向も高い結果に。

北海道民のSDGs取り組み意向項目 TOP3

Q.「持続可能な開発目標（SDGs）」には17の目標が定められています。
それぞれの項目についてあなたはどのように思われますか。取り組み意向者計



TOP3



SDGsの全17目標に対して、最も関心が高かったのは「全ての人が、安くて安定的に発電してくれる、持続可能なエネルギーが使えるようにする」で、23.4%。エネルギーの一大消費地であり、その生活コストも大きい北海道。関心の高さも頷けます。関心度の高かった「海・陸の豊かさを守ろう」の項目への取り組み意向は高いものの、関心度では最も高かった「貧困をなくそう」への取り組み意向が、全17目標の中で最も低くなっています。具体的な取り組み方が示されたり、自分事化の促進が必要なのかもしれません。



今回の
発見ポイント

北海道のSDGsネイティブ世代に期待。 これからは世代を超えて 関心から取り組みへと “自分ごと化”が求められる時代へ。

北海道におけるSDGsの認知は、ここ数年の間に全道の各地域まで浸透してきたようです。
人、モノ、金、情報が国境を越えて行き交うグローバル化の中で、
今後、SDGsの取り組みが求められるのは国際社会だけではなく、ここ北海道でも間違いのないといえるでしょう。

今回の調査から見てきた注目すべき点は、2つあります。
1つは、20代以下の突出したSDGs関心度。
北海道の特徴ともいえそうで、持続的な目標として未来へ向けて取り組んでいく姿が期待できます。
2つめは、関心のある目標と取り組みたいと思う目標に違いがあるという点です。
貧困・福祉に対する関心度の高さに対して、取り組み意向は低い、といった結果になっています。

「誰一人取り残さない (leave no one behind)」

持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に向けて、国連が掲げるSDGs 17の目標を達成するには、
そのいずれも欠かしてはならず、すべてにコミットしてはじめて実現できるものだといえます。

関心を持っているテーマに世代を超えて“自分ごと化”できるか、これが今後、SDGsアクションを実行していくうえで、
北海道民に求められる課題と言えるかもしれません。



・今回担当・

● 研究員 吉田 裕

● 調査概要

新どさんこリサーチ2020 2020年12月実施 インターネット調査 1,500サンプル (道内1,000サンプル)
(2017年から同設計にて毎年11月～12月に実施)

・HAKUHODO・ **新ど研**
北海道博報堂 新どさんこ研究所

北海道博報堂「新どさんこ研究所」(新ど研)とは？

北海道民の今の姿をデータで明らかにしながら、「一歩先の北海道民=新どさんこ」と定義して、その変化を予測・提言する(株)北海道博報堂が設立した研究組織。

お問い合わせ先

株式会社北海道博報堂
新どさんこ研究所
☎011-251-0175 / ✉ shindoken@hakuodo.co.jp

公式 HP

<http://shindoken.com/>

過去のレポートはこちら！

